

# 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

日本女性科学者の会

## 【開催趣旨・目的】

科学研究者人材の活用については、総合科学技術会議が5月17日付取纏めた「科学技術イノベーション総合戦略（原案）」の中でも重点的に取り組む課題として数値目標を掲げ記載されている。東北地域被災地においては、未だ仮設校舎での勉学を余儀なくされている中高生達が多く、理系志望の中高生の将来への進路決定なども多大な影響が出ており、模索状態が続いている。そのような状況下生活基盤の復興に続く課題の一つとして、理系を担う次世代若手育成による裾野の拡大が地域に夢と希望を与え活性化へ貢献する重要課題であると考えられた。なぜなら、個人々の能力と個性を存分に生かせる選択肢を示せるからである。特に、人材活用の観点からも、近年急増する女子学生の理系進路選択を後押しする取り組みが、最も効果的であると考えられた。

具体的に理系女子育成に向けた環境整備を行うためには、研究者と直接話す機会が無い中等教育の段階から、メンターシステム導入による世代間のつながりを構築することが有効である。特に理系女子の進路選択に当たっては、低学年ほど家庭環境における保護者の意向が大きく反映される。そこで学生本人だけではなく、進路選択に多大な影響力のある保護者や教員を対象に理系選択を容易にするための環境を整えると共に、働く女性研究者がより豊かで楽しい人生を歩むための社会環境を作り上げていくことを目的に、意識改革を促すような啓発的なワークショップを企画した。

本会は50年以上にわたり「女性科学者の友好を深め、各研究分野の知識の交換を図る」目的で活動を続けてきた。そこで本会の持つ豊富な人的ネットワークを活用し、昨年秋、女性科学者が自他ともに価値あるキャリアであることを次世代に伝える趣旨のもと「サイエンスネットワークを広げよう」を開催した。研究者と中高生、大学学部生、大学院生を交えた双方向のディスカッションが大変好評であり、参加者と主催側双方に大きな達成感を与えることが出来た。

今回の企画は東北被災地域における現在までのネットワークを中心に現地協力校を募り、メンターにふさわしい女性研究者等に登壇いただく講演会（第1部）につづいて、地元の中高生、理系大学生、大学院生、保護者、進路指導教員等が複数のテーブルに分かれて、講演者と双方向のディスカッションや質疑応答をいただいた（第2部）。理系進路選択から研究者に至る様々な段階の人たち、日頃は接点のない科学者と中高生、大学生、大学院生が一堂に会することで、相互にインパクトある対話が出来、なおかつ新たなネットワークを構築する契機になったと思われる。結果として、将来、自らが望む理系分野への進学、仕事への従事をスムーズに選択出来、管理職やリーダーとして質の高い人材となることは、社会的な人材活用の観点からも大いに期待されるものである。若手人材育成は、日本女性科学者の会としてのメインの活動趣旨に沿うものであり、新たな、そして良質なネットワークを構築できることが期待されるので、会を挙げて取り組んだ。

## 【シンポジウム等の名称・テーマ】

シンポジウム「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ～」

【日時】平成26年2月2日（日） 12:00～16:30 （開場 11:30）

【場所】 コラッセふくしま 多目的ホール

【参加者数】 210名

【プログラム】

時間	所要時間	内容
11:30-12:00	30分	開場／受付開始
12:00		開会
12:00-12:05	5分	<開会挨拶> 大倉多美子氏(日本女性科学者の会会長)
12:05-12:20	15分	<講演①> 日野 珠美氏(NHK 報道局報道番組センター チーフプロデューサー) 「文系 → 科学番組開発中のプロデューサー」
12:20-12:35	15分	<講演②> 小杉 尚子氏(NTTコミュニケーション科学基礎研究所 研究主任) 「音楽で健康になる」
12:35-12:55	20分	<講演③> 阿部 啓子氏(東京大学農学部 名誉教授) 「大学教授になる」
12:55-13:00	5分	休憩
13:00-13:20	20分	<講演④> 外山 玲子氏(米国国立衛生研究所 Health Scientist Administrator) 「サイエンスは世界に羽ばたくパスポート」
13:20-13:40	20分	<講演⑤> 武田 裕子氏(ハーバード大学医学校総合診療部門 フェロー) 「世界で日本を学び地域に活かす」
13:40-13:45	5分	休憩
13:45-14:05	20分	<講演⑥> 勝山 雅子氏(株式会社資生堂 新領域研究センター食品応用研究 G 副主任研究員) 「企業で美しさを応援する」
14:05-14:25	20分	<講演⑦> 高橋 真理子氏(朝日新聞編集委員) 「理系 → 新聞記者」
14:25-14:40	15分	休憩・舞台設営
14:40-15:15	35分	グループディスカッション セッション 1
15:15-15:50	35分	グループディスカッション セッション 2
15:50-16:20	30分	グループディスカッション セッション 3
16:20-16:30	10分	<閉会挨拶>河上 隆氏(内閣府男女共同参画局)



### 【参加者からの主な意見】

- ・各講演、7割ほどの参加者が「面白かった」という回答をしている。残り3割はほぼ「面白かったー普通」「普通」と回答しており、参加者にとって面白い内容であったと考えられる。
- ・ラウンドテーブルについても、7割ほどの参加者が「面白かった」と回答している。自由意見欄には、講演者との距離が近いことで様々な話ができたという事が多く書かれており、これが高い満足度につながったと考えられる。
- ・シンポジウム全体を通しての感想は、7割以上の参加者が「良かった」と回答している。自由意見欄では、様々な世界で実際に活躍している人の話が聞けた事に満足しているという回答が多く書かれていた。

### 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

今回のメインの参加者である中高生にとっては、社会の第一線で働く人々と触れ合う機会はまだ多くないので、このようなイベントは貴重な機会であり、刺激的であったと考えられる。

7割程度の参加者が、科学への興味が湧いてきたと回答している。本シンポジウムを通して参加者に、科学の幅広さ、新たな視点をもたらすことが出来たと考えられる。

### 【今後の課題】

内閣府は「民間・地域等と連携することにより、男女共同参画社会の実現に向けた諸課題とその解決方策について、国民各層における理解を促進することが重要』との方針で本事業を推進しているが、全国のSJWS会員各位もそれぞれの地域でより良い連携のためのネットワークを構築しながら、今後の活動を効率よく工夫していく時期に来ていると感じた。様々なツールを駆使しつつ、心意気のあるSJWSの活動を力を合わせて進めていきたいと考えている。